毎日小学生新聞

定価1カ月1,430円 1部60円（ともに税込み）

おもなメニュー

②たんけん日本 ……山口県
出かけてみよう
③にゅーす交差点
④バンバン川柳
俳句王
⑤おもしろい／ページ ……Lead
⑥めざせ／国語力検定
⑦日本のくらし ……足袋
⑧なぜ？どうして？
……なぜ小麦粉の値段が上がるのか

発行所 毎日新聞社©
東京本社 東京都千代田区一ツ橋1−1−1 〒100−8051 電話(03)3212−0321
大阪本社 大阪市北区梅田3−4−5 〒530−8251 電話(06)6345−1551
西部本社 福岡県北九州市小倉北区紺屋町13−1 〒802−8651 電話(093)541−3131
中部本社 愛知県名古屋市中村区名駅4−7−1 〒450−8651 電話(052)527−8000
北海道支社 北海道札幌市中央区北四条西6−1 〒060−8643 電話(011)221−4141

大地震現地ルポ
「陸の孤島」から逃げてくる住民たち

震源地近くの汶川付近から、右端の男性の運転するバイクで運ばれてきた重傷の少女＝中国・四川省都江堰市郊外で14日、石井諭撮影

中国の四川大地震の発生から三日目の十四日。毎日新聞の記者が、震源に一番近い、アバ・チベット族チャン族自治州汶川県に通じる幹線道路へと向かいました。現場は大規模ながけ崩れで完全に寸断されていました。一方、救助を待てない住民の多くが約九〇キロメートルも離れた都江堰に向かって歩いて避難していました。だれもが疲れ果てた表情です。

「早く病院に連れて行ってくれ。早く」。オートバイの後部座席に小学一年生の女の子(8)を乗せてきた呉士張さん(32)が叫びました。「陸の孤島」となった汶川県から避難する途中、顔中傷だらけで倒れていた見ず知らずの女の子を放っておけず、運んできたそうです。横に立つ少女が頭に巻いた包帯に赤い血がじんでいました。

被災者は1000万人に

汶川県などの被災地の住民は道路を埋めた土砂を避け、壊れかけたつり橋を渡って避難してきています。現地は交通だけではなく、通信も断たれている状態です。汶川県の死者は約五百人。七千七百人が現在も生き埋めになっているとみられます。【中国・四川省で浦松丈二】

中国の通信社・新華社によると、十四日現在の死者は一万四千八百六十六人に上っています。四川省内には他にも住民の安否の確認ができない地域があり、犠牲者は二万人を超える可能性が出ています。

深刻な被害を受けた地域は四川省だけで約六万五千平方キロメートルもあり、被災した人は一千万人を超える見通しです。【四川省で鈴木玲子】

ニュースのことば

マグニチュード（M）

地震の規模を示す物差しです。大きいほど規模は大きく、Mが0.2増えると地震のエネルギー量は約2倍になります。中国・四川大地震はM7.8、阪神・淡路大震災はM7.3でした。

「震度」は揺れの大きさを示す物差しですが、日本の基準のため、外国では使いません。揺れは震源の深さや地盤によっても違うので、Mが同じでも揺れが同じとは限りません。被害の大きさも、揺れや発生時間、建物の丈夫さによって変わります。

レンゲのちお米

茨城県つくば市の「筑波農場」の田んぼで肥料用のレンゲソウが見ごろを迎えています。花の時期は立ち入りが自由で、訪れた人たちがピンク色に染まった田んぼで花摘みや散歩を楽しんでいます＝写真。

この農場は30㌃の田んぼで稲作を行っていて、うち5㌃がレンゲソウを使った有機農法です。田植え前にレンゲソウごと耕して肥料にし、分解された際に発生するガスが除草の役目を果たします。採れた米は「光沢があっておいしい」と評判で「レンゲ米」として販売されています。

花は今月中旬までで、6月初旬には田植えが始まります。

【写真・文 須賀川理】

広告

成績急降下？それは私に出会うまでのこと。実績45年、合宿and or通信教育のパイオニア塾長はお子様を救う。

高村光太郎の詩『ぼろぼろの駝鳥』から始めよう。

「何が面白くて駝鳥を飼うのだ。動物園の四畳半のぬかるみの中では脚が大股過ぎるぢゃないか。頸があんまり長すぎるぢゃないか。雪の降る国にこれでは羽がぼろぼろ過ぎるぢゃないか。腹がへるから堅パンを喰うだらうが、駝鳥の眼は遠くばかり見てゐるぢゃないか。身も世もない様に燃えてゐるぢゃないか。瑠璃色の風が今にも吹いて来るのをまちかまへてゐるぢゃないか。あの小さな素朴な頭が無辺大の夢で逆まいてゐるぢゃないか。人間よ、もう止せ、こんなことは。」

カモメ舞う伊豆半島伊東海岸にて45年合宿専門塾の塾長を務める私、山道良興(やまみちよしおき・67)龍馬(りょうま・38)親子は都市の競争を知らず、中3迄カニ取りに興じ、基礎学習の反芻だけだった。しかし、共に東京外国語大学に合格。しかも息子(現副塾長)は中卒だ。日本中のお母様がわが子の成績向上を願っても、二流大学の合格がやっとと言う現実も多い。勉強法を知らぬ子、勉強の面白さを知らず、ただ競争に駆り立てられる子、成績は限りなくどん底にスパイラルして行く子、可愛いわが子の幸福を願ってのことであろうが、子の悲痛な叫びが聞こえない母であって良いのだろうか。「駝鳥」の詩と、苦しむ子とがオーバーラップする私の眼には塾競争、親の誤った教育法が危険に見える。

親が、わが子になすべき最大事は「善き師を探す」、その一点以外に何があるというのだろうか、お母様。私が「善き師」たるか否かは私の決定すべきことではない。しかし、日本中のあらゆる教師に勝って、ひたすら「効果ある勉強法」の研究に、早朝～深夜没頭する私は、若き教師とは違って、生徒の心に響く言葉、その思い、添削した数千万枚の答案、ここに、人生全てを投入し続ける。恐らく、現役最長老になろうか。

2008.5.16
① 夏・冬・春休み合宿
② 不登校・浪人寮
③ 小中高生FAX通添
④ 日帰り・母親学習相談
⑤ テスト前or土日合宿

夏合宿の直接指導も一つだが、日本中の生徒に一秒で届くファックス通信教育こそ、私の真骨頂なのだ。通信教育に何ほどの価値があろうかと誤解することなかれ。言わずと知れた東大・京大に強い通信教育団体などを見るまでもなく、意外に、教育の原点を通信添削は突いていることがある。田舎塾のことだ、少人数しか見られない。しかし、多人数の教育には真似の出来ない利点がある。親はわが子をじっくり見てもらいたいものなのだ。特に百戦錬磨の眼力フィルターを通してのアドバイスは「いぶし銀」の価値がある。普通、どの塾でも体験は一回きり。しかし、私は違う。私の指導でわが子が無限に伸びるのを見ていただくには、一科目一カ月の無料試し期間は必要だ。その間に不調あらば何の責務もなく、そっとお去りいただきたい。

紙上、一枚で全ては語りつくせないが、私の主張を眼光紙背に徹するご見識で、ご高覧いただき、わが子の幸せにつなげていただきたい。併せて、夏合宿の予約も始まる。頬をなでる潮風、肩に憩うユリカモメ、初夏へ、また一段鮮やかに移り行かんとするここ、伊豆の浜辺からご挨拶を。悩めるお母様へ。

〒414-0022 静岡県・伊東市・東松原町・2-12
ソフィア塾 かに網塾 検索

塾長 山道良興(67) 東京外国語大学OB
副塾長 山道龍馬(38) 東京外国語大学OB
筆頭講師 篠原ゆたか 東京大学OG
外人講師 P.LORD(オーストラリアの大学出身)

☎ 0557-37-0259
FAX 0557-38-2838

資料無料急送、住所・電話・FAX・氏名・学年(希望コース明記)をどうぞ。